教育委員会だより

～益田市教育委員会～

第４号
平成25年１月17日発行

しめなわ作ったよ！今年もよい年でありますように！

益田市議会十二月定例会から

教育長　村川　修

教育長に就任して、初めてとなる十二月定例議会が終わりました。

課題となっている学校給食センターの質疑も多くありましたが、ちょうど益田市教育審議会から「これからの益田市の教育の在り方について」の最終答申を今年度末に迎えるなかで、新任ということもあり、これからの教育方針などについての質疑もありました。

子どもの成長過程において、幼児期は感情や意欲、態度、基本的な生活習慣など生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期です。しかし、少子化や核家族化などが進行した結果として、家庭の教育力が低下しており、これからの子育ては地域全体の果たす役割が一層重要となっています。

「地域の子どもは地域が育てる」という共通認識を持ち、あらためて家庭と保育所・幼稚園・学校を含めた地域社会が連携して、教育機能の向上に取り組むことが重要です。

益田市は島根県の中でも一番広い面積ですが、それだけに各地域もそれぞれの個性が有り条件も様々です。小学校区あるいは公民館単位くらいで、自分たちの地域の将来について話し合うとともに、子ども達に地域への愛着と誇りを持たせるためにはどうやって育てるべきか、子ども達の育て方も一緒になって話し合うことが必要です。

また、子どもの個性を伸ばすことも重要であり、そのためには感性教育が大切です。幼児期から自然体験や文化芸術にふれさせ、いわゆる「五感」（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）を発達させることが重要であり、多くの機会を大人が保障してやったり、背中を一押ししてやるべきです。

こうした、幼児期から五感の「根」を伸ばすことが、学童期以降の心身の健全な成長につながります。このことは、益田市全体での共通認識とする必要があります。

なお、市街地と中山間地域では、環境や条件が大きく違い、取り組みの内容も違って当然です。

地域での議論の結果として、主体的な役割や、連携の在り方、行政やＮＰＯなどの組織の支援・協力の在り方が決まってくると思います。

「よい地域をつくろう。」、「地域に愛着を持つ子どもに育てよう。」という思いが集まったとき、いろいろな制度や人々の支援が活きてきます。

目次

表紙（学校紹介）　・・・・・1P
教育長寄稿
教育情報　・・・・・・・・2、3P
カラフル給食タイム　・・4P
寄付、寄贈のお礼
就任のごあいさつ　教育委員　永田千秋

発見！ 驚き！ ふるさと体験・見学バスの旅

【大神楽のゆず畑見学】
都茂小学校三・四年生

訪れた海老谷さんのゆず畑の木は、高さが低くおさえてあったので、子どもたちも作業ができました。最初は歓声や楽しそうな話し声が聞かれましたが、いつの間にか黙々と収穫作業に熱中する姿に変わっていました。収穫したゆずはゆずジュースにして飲ませていただきました。お湯とはちみつと砂糖で割ったゆずジュースは、きっと子どもたちにとって忘れられない味になったと思います。

【飯田の選果場】
豊川小学校三年生

昨年度から導入された最新鋭の設備に子ども達はとても驚いていました。１つ１つのトマトが特別なカメラで撮影され、大きさや糖度が瞬間的に判別されます。そのスピードに驚きました。

益田市から各地方へ、少しでもよい品物を送ろうとされている選果場やＪＡの方々の思いや情熱を、肌で感じとることのできた見学となりました。

【紙漉体験】
東仙道小学校六年生

「友達がやり直しをしているのを見て心配しました。予想通り難しくて大変な作業でした。やっと最後まで漉くことができました。漉き終わったとき、完成したものが早く見たいという気持ちがわいてきました。そして、この卒業証書が渡されたらどんな感じだろうとも想像しました。世界に一つだけの証書を親に見せたい気持ちになりました。」（児童作文より）

「益田ふるさと検定」に挑戦！

「とっても難しかったねえ。」

参加した学校のある校長先生が言われた言葉です。

おそらく、子どもたちにとっては、かなり難しい内容だったと思います。小学四年生の子どもが「平安時代」や「天領」を選択するわけですから易しくはありません。今回、一、０００人以上の参加がありましたが、合格者はかなり少なくなりました。それにしても、多くの学校に参加していただき、本当にありがとうございました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

今回、問題を作成する段階で二つほど確認しました。

一つは、「益田ふるさと物語」をしっかりと読んでこそ答えられる問題を出そうということです。

合格した子どもたちは間違いなく二回、三回と読んでいることでしょう。おそらく「ふるさとを自分の言葉で語ることのできる子ども」に一歩近づいてくれたのではないかと思います。

二つ目は、学年を超えて、もっと言うと子どもと大人とを同じ土俵に立たせたいということです。

今回、市民の方も約50名受験されました。さすがに合格率は子どもたちより高かったですが、問題の難易度はほぼ同じです。したがって、この検定が家族や地域の中で、子どもたちのがんばりを認めてくれるきっかけになることを願っています。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「継続は力なり。」子どもたちには、次回に向けて頑張ってほしいと思います。今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

益田市教育協働化推進事業（つろうて子育て）

今年度から、島根県教育委員会では、『結集！しまねの子育て協働プロジェクト』が始まっています。これは、本市が取組んでいる教育協働化推進事業のように、学校支援を柱とした「地域の子は地域で育てる」ことを目指しているものです。このプロジェクトの学校活動モデル［県指定］として、道川小学校と美濃小学校が取組んでいます。道川小は、地域伝統の継承と地域産業を体験することをとおしてキャリア教育や命の学習に取組んでいます。

【道川小：レンコン収穫の様子】

【美濃小：オリジナル劇「探検！発見！地域の宝！！」～こま名人も一緒に出演～】

美濃小では、「みのっこふれあいふぇすた２０１２」と題して、学習発表会をリニューアルし、地域の「ひと・もの・こと」のよさを再発見する取組みを行っています。

このような学校・家庭・地域の連携事業は全国各地で進められていますが、それぞれの地域で大切にしたいものを子どもたちに伝えたり、地域住民が子どもと接して豊かな心情で生活したりしていくために欠かせないものになっています。

中世の湊町　中須東原遺跡について（第四回　遺物編）

中須東原遺跡は中世の湊の遺跡で、中須湊は多国籍の人や物が行き来する国際色豊かな、益田の玄関口でした。こうした当時の様子を知るヒントを与えてくれるのが、土の中から発見される焼き物など、形の残ったモノ＝「遺物」です。

見つかった遺物は、焼き物が大半で、主に食器として使われていたものです。その生産地を調べると、中国や朝鮮半島の他に、タイやベトナムで焼かれたものが確認されています。また、調査で見つかるその出土量も豊富で、単に益田地域の需要に応じただけでなく、中須湊で一旦荷揚げされた後に、日本海の沿岸づたいに他の地域へ再び運び出されることもあったと考えられます。

この他の遺物では、壺や甕（かめ）といった大型品が目を引きます。

これらは、水を溜めたり、火薬の原料となる硫黄などの粉末を持ち運ぶために使われたと考えられますが、食器等の焼き物を船で運ぶ際の容器（コンテナ）としても活用されていました。容器には、内容物やその注文者の名前などが記載された荷札と呼ばれる木製の板がくくり付けられており、中須東原遺跡の船着場からも発見されています。

韓国南部の新安沖の海底で発見された鎌倉時代の沈没船には、船倉一杯に壺や甕が積み込まれ、その中には中国の青磁や白磁の碗・皿が何十枚も積み重ねられていました。

このように、中須で掘り出された多くの遺物は、東アジアの産物を積み込んだ大型船が、中須沖合まで訪れていたことを物語っています。

中須東原遺跡の調査・研究は始まったばかりですが、そこから発見される遺物には、中世の人々の生活様式や好みを知る上で重要な数多くの情報が詰まっています。

海を渡って来た遺物
（中国製の青磁・白磁・天目碗（てんもくわん）など）

貿易船（復元模型）

正しい箸の使い方は？ ～達成感を感じる献立づくり～

給食で食事マナーを学ぶ

和食の作法は、「箸に始まり、箸に終わる」といわれています。学校給食の献立も和食中心になる傾向が強まるなか、食の指導においても「正しい箸の使い方」に重点がおかれるようになりました。

美都学校給食調理場ではこの箸の使い方に着目し、箸の正しい持ち方を指導するうえでの素材として、焼きビーフン、生姜とイカの中華和えといった献立を提供しました。

正しい持ち方で何回も掴む

全国的に学校給食でも「先割れスプーン」から「箸」を使用する頻度が増えている一方で、「箸の動かし方を習得できていない」「箸の持ち方が気になる」といった実態も多く見られます。そういったことから、小学校・中学校を問わず、「正しい箸の使い方」に関する指導の大切さを再認識しているところです。

美都学校給食調理場の昨年12月19日の献立では、「正しい箸の使い方」をマスターしてもらうよう献立に配慮しました。豚肉、エビ、麺などの比較的箸で掴みにくい食材をたっぷり使い、正しい持ち方で何回も掴むような献立にしてあるのが工夫した点です。

◆東仙道小学校での指導の様子

お箸マイスターをめざそう！

当日東仙道小学校では、事前に箸の使い方を指導した後で給食を食べました。児童は箸の使い方に気を配りながらも、食材をきちんと掴んで食べるということを意識しながら、楽しい給食の時間を過ごしたようでした。食べ終わった後は、特に上手に使えた児童に対して「お箸マイスター」の称号が与えられ、指導にあたった福代栄養士お手製の星形モールクラフトがプレゼントされました。

食事のマナーを学ぶという意味でも箸を正しく使いながら、学校給食を楽しくいただきたいものですね。

★12月19日の献立
コッペパン、牛乳、ミルメーク
焼きビーフン、わかめスープ
生姜とイカの中華和え

献立作成　福代　愛

寄贈、寄付のお礼

小学校へ図書寄贈
・益田法人会　様

益田市奨学金へ寄付
・国際ソロプチミスト益田　様
・㈳茶道裏千家淡交会石見支部万葉青年部　様
・年忘れ益田市民余芸大会事務局　様
・島根県合唱連盟益田支部　様
・故　斉藤義信　様（乙吉町）

就任のごあいさつ　教育委員　永田千秋

平成24年12月26日付けで、益田市教育委員会委員に就任しました永田千秋です。

教職を去って約9か月、再び益田市の教育に携わることになり、感謝の念と同時に課せられた重責に身が引き締まる思いです。

今年度、島根県が取組んでいる「ふるまい向上」プロジェクトコーディネーター西部地区担当として、浜田・益田教育事務所管内の「ふるまい向上」普及啓発活動に取組みました。多くの社会教育関係者や地域の方々との出会いを通して、新たな視野で教育を考えることができました。

益田市の児童生徒が仲間や地域の人とつながり、ふるさとに誇りと愛をもって、広く生き生きと学び合える環境の大切さを痛感しています。その教育環境づくりのために、微力ながら、今までの経験を生かして力を尽くしたいと思います。

よろしくお願いします。